

戦争を忘れないで語りつごう

こまえ平和フェスタ2010 (第6回) 開催



フィナーレ全員合唱



堀江伶子さん(フルート)と日裏晶子さん(ピアノ)の演奏

ちは日ごろから、多くの事実や報道の中から何が真実なのか何が正義なのかを見抜く力を養い、きな臭い動

きに対してノーと意思表示していかなければならないと思います」と述べました。矢野市長と道下議長もあいさつ、平和都市宣言にもとづき草の根のとりくみを前進させる決意を述べました。

第二中学校の合唱部は「忘れない夏」という合唱と踊りを織り込んだ合唱劇の

中で、沖縄をテーマとした「さとうきび畑」と「島唄」を平和への思いをこめて歌いあげました。市内在住の音楽家、堀江伶子さんと日裏晶子さんによる「アヴェ・マリア」「星に願いを」などフルートとピアノの演奏は、会場を魅了しました。

第二部は市民有志による朗唱劇「みいちゃんの詩」(丸木俊原作「ひろしまのピカ」より)で始まりました。原爆にあった家族の悲劇と核廃絶の願いを込めて朗読と合唱で構成された劇で市内在住の俳優・岩下浩さんの演出で、迫力のある内容でした。舞台の真ん中でたたずむ女の子のしぐさが印象的でした。

市内在住の被爆者、安部仁子(とよこ)さんは映像で「9歳の時に長崎で被爆しました。防空壕で助かったけれど、その日は、小学2年の弟を連れて逃げ回りました。あちこちからうめき声が聞こえました。私の父は真っ黒に焦げ、母も亡くなりました。母のそばに6歳の弟も黒こげになって横たわっていました。長姉も



会場風景

被爆体験者
安部仁子さん

8月22日、エコルマホールで「こまえ平和フェスタ2010」が開かれ550名を超える市民が参加しました。平和フェスタは市と市民が協働で開催し、今年で6回目となります。

オープニングは、駄倉保育園の園児と卒園児による荒馬踊り。幕が開くと元気な子どもたちの演技に歓声が上がりました。きんたの会と跳鼓舞による男壮な和太鼓のあと実行委員会を代表して小俣眞智子さんがあいさつ。「戦争は、もっともな理由を付けて優しい顔をして忍び足でやってきます。そして一旦始まると自由な発言が許されなくなり戦争に反対できなくなります。ですから私た



駄倉保育園の園児と卒園時による荒馬踊り



市民有志による朗唱劇「みいちゃんの詩」



二中合唱部による「さとうきび畑」などの合唱



平和フェスタ合唱団による「にんげんをかえせ」などの合唱



きんたの会・跳鼓舞による和太鼓



平和フェスタモーらん隊によるロックソーラン



狩野光男氏による東京大空襲の絵



一般公募と六小児童の絵手紙



平和を願う川柳・俳句・短歌



平和図書コーナー



折鶴コーナー



アンケートを書く参加者

眠るように息絶えました。女学校2年だった次姉も大やけどを負い、終戦の日の早朝亡くなりました。戦後、結婚しましたが、被爆者が子どもを産むのは心配だと言われ、私も子どもを産む勇気もなく、自分から離婚しました」と語りました。そして舞台から「戦争は絶対にやってはだめ。このことを覚えていてほしい」と訴えました。

その後、粕江高校有志による粕江市平和都市宣言と標語の朗読、平和フェスタ合唱団による合唱、平和フェスタモーらん隊によるロックソーランが

披露され、最後は参加者全員で「翼をください」を歌いました。

ホワイエでも多彩なとりくみが行われました。「八月の雨は無言の覚悟あり」（森田幸さん）など川柳や狩野光男さんの東京大空襲の絵、一般公募と六小児童による絵手紙など、参加者は熱心に見ていました。原爆被害の実相を伝える展示を見た男性は「私も広島で胎内被曝しましたが、両親から聞いていたんですけど、展示を見て改めて原爆の恐ろしさを知りました」と語りました。